

II-1. 調査と研究

平城京の発掘調査

1996年度に平城宮跡発掘調査部がおこなった発掘調査は、平城宮跡6件、平城京跡17件、京内寺院・その他3件であった。この26件の調査のうち、学術発掘および史跡整備にともなうものは7件8570㎡、住宅建設などにもなう緊急調査は19件4562㎡であった。部長・写真専門員をのぞく調査部員は23人であり、平均すると、一人あたり1.13件・575㎡の発掘を担当したことになる。

おもな調査は以下のとおりである。平城宮跡では、東区朝堂院南門東築地（第267次）、東院西辺部（第270次）、東院園池（第271・276次）、式部省東方官衙（第273次）と、調査が宮の東南部に集中した。第267次調査では、東区朝堂院南限を区画する塀・門の改築の状況をほぼ解明した。第270次調査では、奈良時代末期に内裏正殿につぐ大規模な建物が存在したことなど、宇奈多理神社西方地区の様相をあきらかにした。第271・276次調査では、東院園池および東面・南面大垣の詳細を把握することができ、進行中の整備事業に貴重な知見を提供した。第273次調査では、調査部が継続的におこなってきた式部省東方官衙の調査をほぼ終了し、この地区の官衙の建物

配置や性格の変遷を解明することとなった。

京域では、宮北方の市庭古墳周辺の調査が比較的多かった。第269-1・13次調査では、海龍王寺周辺の変則的な条坊配置があきらかになった。また、長屋王邸（第269-4次）、東一坊坊間路（第269-5次）に関しても新たな知見を得ることができた。さらに、多量の緑釉瓦と公的もしくは宮的な色彩の強い建物群を検出した左京二条二坊十一坪の調査（第279次）も特筆すべきものである。外京域・京外では、大乘院の調査（第275・278次）と頭塔の調査（第277次）をおこなった。前者では、大乘院庭園および御所北辺の中世末～近代の状況をあきらかにした。とくに第275次調査では、日本ナショナルトラストによる大乘院庭園整備（57頁参照）に基礎資料を提供できた。後者では、下層・上層頭塔の構造と変遷を詳細に把握できた。また、心柱礎石やその抜取穴から差し金を発見するなど、重要な資料を得た。さらに、古墳時代後期の横穴式石室や江戸期の墓がみつき、多方面にわたる新情報を提供した。以上の調査成果の詳細については、年報Ⅲを参照されたい。なお、発掘調査にともなう現地説明会は、以下の日時に開催した。（加藤真二）

- 6月8日 平城宮第267次（東区朝堂院南面築地）古尾谷知浩
- 8月24日 平城宮第270次（東院）箱崎和久、清野孝之
- 12月7日 平城宮第273次（式部省東方官衙）平澤毅
- 3月8日 平城宮第279次（左京二条二坊一坪）井上和人